

2017年‘7/13

やまなし平和行進ニュース「あるこう」 No.2

<山梨県内行進2日目> 南アルプス市 富士川町コース

7/13 (二日目) まとめ

●行進参加者34人●南アルプス市・歓迎職員5人●富士川町・歓迎職員14人 計53人
●沿道募金0円●自治体募金5000円 ヒバクシャ国際署名253筆(沿道34筆、自治体からの署名、南アルプス市5筆、富士川町214筆)

*責任団体 ユーコープ、冷たいアイスキャンディ提供。宣伝カー、梨商連。

*国際青年リレータスキは、民医連の青年が繋ぐ。暑い中頑張りました。

自治体歓迎あいさつ。南アルプス市・高野副市長、富士川町、斎藤財務課長が志村学町長のメッセージ(別項)を代読。

<富士川町 志村学町長のメッセージ>

この国民平和大行進は、1958年にはじまり、間もなく60年を迎えるという長きにわたり、全ての都道府県を回りながら、核兵器の廃絶を訴える行動に、大変、頭の下がる思いであります。

現在、国際社会では、武力紛争が絶えず、核兵器の存在は、世界平和に深刻な脅威となっております。なかでも、昨今、北朝鮮はICBMと称した弾道ミサイルの発射をし、日本の排他的経済水域への落下など言語道断の行為が繰り返されております。

こうした中、7月7日に国連本部で「核兵器禁止条約」が賛成多数で採択されましたことは大きな一歩であり、わが国は、唯一の被爆国として、再び、あの広島、長崎の苦しみを絶対に繰り返してはならないと痛感しているところであります。

このような中、本町は、平成22年9月、真の恒久平和を実現していくため、戦争の悲惨さと核兵器廃絶を強く訴えるため、「核兵器廃絶平和都市宣言」をいたしました。世界の恒久平和を願い、豊かな自然に恵まれた富士川町を次の世代に引き継ぎ、ここに暮らす人々の暮らしを守っていかねばならないと感じているところであります。

むすびに、本日の国民平和大行進に参加されました皆さまのますますのご活躍をお祈り申し上げ、この活動が、全世界に伝わり、世界の平和につながることをご期待申し上げます、あいさつといたします。

平成29年7月13日

富士川町長 志村 学

*富士川町長からは、世界大会へのペナントとともに、214筆の署名と5000円の募金を寄せていただきました。ありがとうございました。